

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

定額法によっている。

(2) 消費税の会計処理方法

消費税の会計処理方法は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減及びその残高は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	30,000,000	0	0	30,000,000
小計	30,000,000	0	0	30,000,000
合 計	30,000,000	0	0	30,000,000

3. 基本財産及び特定資産の財源等その内訳は次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	
小計	30,000,000	30,000,000	0	
合 計	30,000,000	30,000,000	0	

4. 担保に供している資産

該当なし

5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	2,553,410	2,042,237	511,173
合計	2,553,410	2,042,237	511,173

6. 保証債務

該当なし

7. リース取引の処理方法

リース取引の処理方法は次のとおりである。
事業活動費管理費で（賃借料）処理している

リース機器	毎年／額	当期末残高	期間／年	リース期間
印刷機	180,180	540,540	5	H24.4月～H29.3月迄

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には現金預金、前払金、未払金を含めている。
前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金	133,425	28,400
普通預金	10,112,930	10,993,863
前 払 金	3,816,000	3,683,280
合 計	14,062,355	14,705,543
未 払 金	97,913	287,810
合 計	97,913	287,810
次期繰越収支差額	13,964,442	14,417,733

3. 予算額と決算額の差異について

科 目	予算	決算	差異	理由
音楽会	4,650,000	4,367,221	282,779	参加校・参加人数減